



奪われずに済んだ命を 奪った18分間 富山県警奥田交番襲撃事件

明るい警察を実現する全国ネットワーク

弁護士 清水 勉

2023.12.16

事件の経過

富山中央警察署奥田交番は富山市の比較的中心部の住宅街にある。2018年6月26日午後2時7分頃、自衛隊員歴のある青年Cが鋭利なナイフで奥田交番のA警部補を滅多刺しにして瀕死の重傷を負わせ、拳銃を奪って、その場から立ち去った。

逮捕後の青年Cの話では、警察官と銃撃戦をして警察官に射殺される覚悟だったとのこと。

午後 2 時 2 5 分頃

奥田交番から約100メートルの位置に富山市立奥田小学校がある。

午後2時25分頃、奥田小学校の敷地内で行われていた改修工事のために出入りする車両の安全を確保するために北門付近の警備に当たっていた警備会社の中村信一さんは、小学校正門前で青年Cに至近距離から頭部を撃たれて死亡した。

事件直後の報道

中村さんが殺害されたのはA警部補が拳銃を奪われたからだという、警察(官)批判のトーンが鮮明だった。

県警本部も拳銃が奪われたことを問題視し反省の弁を語っていた。

しかし、中村さんの妻の考えは違った。

夫の死に納得ができなかった。

事件発生直後は青年C、拳銃を奪われたA警部補への恨みだけだった。が、・・・

時間が経つにつれて、事件発生から夫が殺害されるまでの18分間、警察は何をしていたのか。拳銃が奪われたとしても夫は殺害されずに済んだのではないか。

妻は事件現場にいなかったが、夫の死は事件発生後の警察活動に問題があったのではないかという疑問を抱いた。

18分間

中村さんの体験

中村さんと一緒に働いていて、青年Cに拳銃で撃たれそうになりながら命拾いした同僚男性がいた。

中村さんも同僚男性も奥田交番で襲撃事件が起こっていたことを知らなかったが、奥田交番に向かう何台ものパトカーのサイレン音を聞き、小学校前の道路に出て奥田交番の方向を見ると、何台ものパトカーが集まってくるのが見えた。

二人で「何が起こったのだろう」と眺めていた。

午後 2 時 2 5 分頃

小学校前の道路の反対側から青年Cが小学校正門前にいる警備員の服装の同僚男性を警察官と勘違いして、2発撃った。どちらも当たらず。

青年Cが道路を渡ってきて、同僚男性の後ろを歩いていた中村さんと鉢合わせになり、中村さんの頭部に拳銃をつきつけ、発射。

中村さんはその場に崩れるように倒れ、その後搬送先の病院で死亡を確認。

青年Cは同僚男性を追ったが、すでに拳銃の弾が尽きていた。

拳銃発射音に駆け付けた警察官らが青年Cを逮捕。

事件発生直後

奥田交番にいた B 交番相談員は、交番内の事務室から通信指令課に「刃物を持った男が暴れている」「（A 警部補が）拳銃で撃たれた」と警察電話。、その間、2 回の拳銃発射音が通信指令課に聞こえる。

午後 2 時 11 分頃、交番向かいにある美容室に逃げ込んだ B 交番相談員は美容室の店長に頼んで 110 番通報してもらった。

通信指令課の指令

警察電話を受けた富山県警察本部通信指令課では、犯人が拳銃を持っているか、A警部補から奪ったと判断する状況だった。

指令担当警察官は、富山中央署や警ら中の警察車両に対して、奥田交番に向かうよう指令。装備敷材の万全を期するよう指示。

奥田小学校への緊急連絡

交番襲撃事件が発生した午後2時頃、児童らは校外学習に出ている4年生93人を除いて約410人がまだ学校内にいた。

管轄署である富山中央署は、午後2時10分頃、奥田小学校に危険を知らせる緊急電話をかけ、同小学校では児童らを下校させず全員を体育館に集めた。

富山中央署は近隣の他の小中学校にも同様の緊急連絡をした。

交番に集まって来た警察官

午後2時13分頃、奥田交番に到着した警察官らは、奥田交番の裏手で血だらけになって瀕死の状態になっているA警部補を発見。

これを見た警察官は、直ちにこのような状態を富山中央署、富山県警本部に報告。

奥田交番に集まるパトカーのサイレン音を聞いた周辺住民らが公道に出て同交番付近に集まってきたが、警察官らは住民らに危険な状況の説明、警告をしなかった。

「マル被の逃走方向北東方向北東方向に逃走で、現在徒歩で向かっている模様」

通信指令課は拳銃を持っている可能性がある青年Cが徒歩で移動していることを確認。

午後 2 時 1 6 分

午後 2 時 2 1 分

A 警部補が拳銃を奪われていることを富山中央署の刑事一課長が目視確認。

この時まで警察官は拳銃が奪われているかどうかを確認せず。

刑事一課長も、救急隊員が A 警部補の身体を動かしたときに腰のホルダーに拳銃がないことに気づいただけ。警察官として拳銃奪取の有無を確認していなかった。

午後 2 時 2 5 分頃

多数の警察官がすぐ近くいるところで、また、小学生たち全員が体育館内に避難しているときに、何も知らない中村さんと同僚男性が青年Cに狙撃され、中村さんが死亡した。

危険の警告

15

富山県警通信指令課、富山中央署通信指令係は、事件現場に向かう警察官に装備敷材を万全にするよう指示し、地域の小中学校には警告の緊急連絡をしているのに、通行人や近隣住民には一切注意喚起をしなかった。

警察には近隣住民や通行人の生命身体を守る義務があった。

パトカーで早々に注意喚起をしていれば防げた事件
中村さんが亡くなったのはこの義務を怠ったから。

なぜ、警察は注意喚起しなかったのか

裁判での被告県(県警)の弁解

- ・近隣住民や通行人の生命の危険は抽象的なもので具体的ではなかった
- ・青年Cは警察官を撃とうとしていた、中村さんは撃つ対象になっていなかった
- ・中村さんの生命身体の危険は青年Cに拳銃を突き付けられたとき、それまでは具体的な危険はなかった